

NO. 13 鹿角の防災

担当：加賀屋 徹

1 研究内容

近年、平均気温の上昇、豪雨、豪雪、地震、火山活動等、様々な自然災害や自然環境の変化が起こっている。それらは、メディアを通して知るだけではなく、東日本大震災や平成25年秋田・岩手豪雨のように、身近で起こる可能性も高まっている。この現状を踏まえて、事前に知識として災害の可能性を知っていることで、被害は最小限に抑えることはできないかという発想のもと、十和田高等学校周辺の地域では、どのような自然災害が発生する可能性があるのか、起きたのか等を調査することとした。

2 これまでの学習活動

・十和田高等学校周辺の地域理解

十和田高等学校がある鹿角市毛馬内地区の地理を把握するため、フィールドワークを行い、実際に周辺地域を歩いて調査した。生徒の視点で、危険な箇所をチェックし、写真で記録した。

・防災に関わる知識の理解

実際に災害が発生した時に、「誰に助けられたか？」というデータ(出典元 日本火災学会「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」)から、ほぼ、自力、家族、友人などであることを学び、防災の分類は、「自助・共助・公助」があることを学んだ。

3 これからの展開

・防災に関わる知識の理解

・十和田高等学校周辺の地域理解

・十和田高等学校周辺の生徒視点のハザードマップ作成

・研究のまとめ